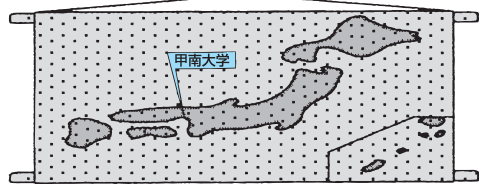


Zephyr

ゼフィール・にしかぜ

〈第37号〉


<http://www.kilc.konan-u.ac.jp>

《特集＊検定試験で資格を取得しよう！》

☆所長からのメッセージ 外国語検定試験資格取得の勧め

- 〔英 語〕 TOEFL iBT (インターネット版 TOEFL テスト) 受験に関して
- 〔ドイツ語〕 ドイツ語検定にチャレンジ「独検から国際試験へ」
- 〔フランス語〕 仏検に挑戦して就職・進学に有利な資格を取ろう！
- 〔中国語〕 中国語の検定試験に関心のある人に
- 〔韓国語〕 韓国語学習者のための「韓国語検定試験」の紹介
- 〔日本語〕 挑戦に終わりはしない

胡 金定	1
津田 信男	2
藤原三枝子	3
中村 典子	4
石井 康一	6
金 泰虎	7
富阪 容子	8

所長からのメッセージ

外国語検定試験資格取得の勧め

国際言語文化センター所長 胡 金 定

外国語を学習している人は常に、自分の外国語レベルを測定し学習の励みにしたいという気持ちを持っています。また、自分の外国語能力をどのように生かすかを考えているでしょう。現在、日本で実施されている様々な外国語検定試験は、語学能力を測定する方法の一つです。甲南大学国際言語文化センターで開講している英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語及び日本語（外国人留学生向け）などの言語はすべて検定試験の制度が設けられています。これらの言語の検定試験は日本国内だけでなく、その言語を母語として使っている国の検定試験制度もあり、日本での受験も可能です。

日本にはさまざまな資格試験があり、その取得に力を注ぎこむ人が多くなっています。この傾向は年々強くなり、資格獲得時代といわれています。資格を持っていればいろいろなところで評価されるため、複数の資格を取得する人もいます。中でも外国語検定は歴史が古く、試験結果に信頼性があります。そのため、甲南大学国際言語文化センターは入学前に取得した外国語検定試験の資格を入学後の単位として認定しています。つまり、基礎英語科目及び第2外国語基礎科目（基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語）履修免除制度です。あるレベルの検定試験に合格した学生を対象に、基礎科目履修を免除して、中級科目に進むことができるようにしています。また、入学後、外国語検定試験を受けるための「検定試験準備クラス」も開設し、学生諸君の外国語検定試験資格取得を積極的にサポートしています。

大学での外国語教育は、その言語能力を修得して、高い専門知識を駆使し、外国に発信すると同時に、外国語で書かれた論文や文献を読解し、新しい知識を吸収するところにあります。一方、大学教育におけるアカウンタビリティが声高に叫ばれるにつれて、大学の外国語教育における言語能力のレベル評価がかなり現実味を帯びてきました。このような理由で、甲南大学国際言語文化センターの外国語教育は、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく学ぶことができるアカデミックな外国語教育方針を実施しています。また、時代の変化に対応できる外国語教育方法の開発も進め、学習者を中心とした双方向のコミュニケーション型な授業形式を取っています。さらに、即戦力を必要とするビジネス社会で活躍できる人材を養成するため、テキスト編集、カリキュラム編成、教授法の開発などにも力を入れています。

外国語検定は留学、企業就職、海外生活、ホームステイなどに有効な資格です。学生諸君、ぜひ外国語検定資格取得を目標の一つとし、大学の4年間、根気強く学習に邁進してください。

TOEFL iBT (インターネット版 TOEFL テスト) 受験に関して

国際言語文化センター教授 津 田 信 男

ここ数年、留学を目指して語学力を付け、更に TOEFL で高得点を得たいという学生が多くなっています。甲南大学でも、中級英語 TOEFL 2 クラス、上級英語 TOEFL 1 クラスを開講し、学生は主に TOEFL iBT の傾向と対策について学習しています。特に近い将来、留学を計画しているなら、ぜひこのクラスを履修することをお勧めします。

それでは TOEFL を受験したことのない人に TOEFL とはどのようなテストなのかを簡単に説明しましょう。

TOEFL とは、

TOEFL とは、Test of English as a Foreign Language の略称で、英語を母語としない人々の英語力を測るテスト。米国、カナダの大学などに留学を希望する外国人学生が、大学の授業についていける英語力を有しているかを評価するテストとして実施されている。

TOEFL iBT の内容

受験者は、試験会場でコンピュータを使用し、画面上で問題を読み、解答します。リスニングとスピーキングセクションは、専用のマイク付きヘッドフォンを使用します。

- Reading Section (60—100分) アカデミックな長文読解問題：3—5 題
- Listening Section (60—90分) 講義形式の問題：4—6 題
複数人数による会話の問題：2—3 題
- Speaking Section (20分) 身近なトピックに関して口頭で答える問題：2 題
読み、聞いた内容に関する質問に口頭で答える問題：2 題
聞いた内容に関する質問に口頭で答える問題：2 題
- Writing Section (50分) 読み、聞いた内容に関する質問に対し作文する問題：1 題20分
与えられた身近なトピックに関して作文する問題：1 題30分
- スコアは、各セクション30点満点で計120点になります。

申し込みについて

TOEFL テスト受験希望者は、申し込み前に受験要綱 (TOEFL Information and Registration Bulletin) を必ず読んでください。受験要綱は、TOEFL テスト公式ページ www.ets.org/toefl からダウンロードできます。日本では、国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部 TOEFL 事業部が広報・宣伝活動を行っています。(URL: <http://www.cieej.or.jp>)

テストに関する問い合わせ：03-5467-5489 (月～金 10:30-16:30)

その他

甲南大学では、提携校への交換留学 (期間 1 年) にはすべて iBT TOEFL のスコア (最低61点) が必要です。尚、3 ヶ月、半年などの奨励留学は、ITP TOEFL のスコアで申し込むことができます。ITP TOEFL は、3 つのセクション (リスニング、文法、リーディング) から成る115分のマークシート方式のテストで年数回大学で実施しています。問い合わせは国際交流センターまで。2007年度は8月初旬に ITP TOEFL の集中講座 (最終日は、ITP TOEFL を実施) を行う予定ですので、興味のある人は受講してください。集中講座の詳しい情報は、国際言語文化センター事務室 (6 号館 3 階) まで。

さて、甲南大学では1年間の交換留学制度があり、提携校で学べる機会が与えられています。しかし、留学するためにはまずこの TOEFL で高得点を取る必要があります。提携大学によっては最低61点くらいで何とか留学は可能ですが、できれば79点くらいは取って欲しいものです。なぜなら61点でたとえ留学できたとしても、入学するとすぐに英語の Placement Test をする大学があり、成績が悪ければ英語集中講座を受けることになり、正規の授業は殆ど取れなくなるからです。筆者の経験では英語を母語とする人達と対等に勉強するには相当の語学力と努力が必要です。また、自分は日本人留学生で英語は母語ではないの

で、先生は大目に見てくれるだろうと言うような甘い考えは通用しません。教師はどの学生に対しても平等な扱いをする（言い換えれば留学生は母国の学生と同じことを課せられる）のが普通です。

それでは TOEFL で高得点を取るにはどのようにすれば良いのでしょうか。まず、問題集などで傾向と対策を知ることです。お勧めの対策本は *Barron's TOEFL iBT: Internet-Based Test* です。これは実際の TOEFL テストとほぼ同じレベルで、北米で一番売れているものです。この対策本及び他の TOEFL に関する本は 6 号館 3 階マルチメディア自習室に置いてあります。しかし何よりも大切なことは、普段から英語で話したり、英語を聞いたり、読んだり、書いたりする機会を持つことです。あじさいルームにいる留学生と話をしたり、6 号館 5 階英語学習指導室で行っている英語のチューターと話したり（スケジュールは、英語学習指導室前掲示板に貼ってあります）すると学んだ英語を使う機会を持つことができます。さらにニュース (*National Public Radio*: www.npr.org の Morning Edition, All Things Considered などの番組)、二ヶ国語放送、DVD (英語字幕) などの生の英語を聴くこと、英字新聞、*Reader's Digest*, *Newsweek*, *Time* などの雑誌を読んで読解力、語彙力を付けること。また、このような新聞、雑誌を読む場合、一語一句理解するために辞書を引くのではなく、全体を通して main idea は何かを把握することに集中してください。そうすることによって早く読むことができ、知らない単語を文脈の中で推測する練習にもなります。また、辞書は必ず英英辞典を中心に使ってください。初めはなんとなく不安を感じるかもしれませんが、慣れると英語をそのまま理解し、自然な英語を使うことができるようになり、長い目でみるとその方が効果的です。

最後に、当大学の留学制度などを利用して、諸君が英語力を高め、国際的な視野を深めんことを期待したいと思います。

ドイツ語検定にチャレンジ「独検から国際試験へ」

国際言語文化センター准教授 藤 原 三枝子

日本で一番よく知られているドイツ語の統一試験は「ドイツ語技能検定試験」(略称「独検」)でしょう。しかし、国際的に通用するドイツ語検定試験については、残念ながら日本ではあまり知られていません。皆さんの仲間や先輩たちが挑戦し、そして形にしていった体験をもとに、関西で受験可能なドイツ語検定試験についてご紹介します。

円山賢治さんの場合 (文学部・歴史文化学科 3 年)

2 年生：前期	2 年生：後期	3 年生：前期	3 年生：後期	4 年生
独検 4 級	独検 3 級+ÖSD: GD	(ÖSD: ZD)		→



☆ 私はドイツ語検定をドイツ語力向上のための大切な目標だと思っています。具体的な目標を定めることで、それに向かって一生懸命勉強することができるからです。何からはじめればいいのかわからない人はまずこの検定試験を目標に勉強することをお勧めします。私は 2 年の 6 月に独検 4 級、10 月に 3 級、1 月にオーストリア政府公認試験 (ÖSD) の「初級 GD」を受験しました。ÖSD の試験は複雑ですが、担当の先生に熱心に指導していただきましたので問題ありませんでした。間もなく次のステップに挑戦します。

柏木さやかさんの場合 (経済学部 2006 年度卒業)

2 年生：前期	2 年生：後期	3 年生：前期	3 年生：後期	4 年生
独検 4 級	ÖSD: GD	独検 3 級+ÖSD: ZD		GI: ZMP



☆ 私が受験したきっかけは、2 回生の夏に参加したドイツ語海外語学講座でした。受身な姿勢から、自分で勉強をする良いきっかけになったように思います。みなさんも、積極的にチャレンジしてください！私の場合は、2 回生の 6 月 独検 4 級、2 回生の 1 月 ÖSD の「初級 GD」、3 回生の 6 月 独検 3 級、3 回生の 7 月 ÖSD の「基礎統一試験 ZD」、4 回生の 6 月に Goethe-Institut で「中級統一試験 ZMP」を取りました。

ドイツ語検定試験には大きく分けて二通りあります。日本国内の機関「財団法人ドイツ語学文学振興会」が実施している「**ドイツ語技能検定試験**」(独検)と欧州評議会の定めた外国語能力評価基準(全6段階A1～C2)に基づいて実施されている国際的に通用する検定試験です。関西では、「**オーストリア政府公認ドイツ語資格試験**」(ÖSD)と「**ゲーテ・インスティトゥート**」(Goethe-Institut)の各種試験を受験することができます。

「**独検**」は、春(6月)と秋(11月)の2回、全国の大学を会場にして開催されています。試験は**1級**、**2級**、**3級**、**4級**に分かれ、それぞれ筆記と聞き取り問題が課されます。1級、2級の合格には、筆記試験合格後、口頭試験が課されます。3級・4級の試験を甲南大学で受験することができます。

4 級	ドイツ語の初歩的な文法規則を理解し、日常生活に必要な基本単語が運用できる。 (ドイツ語授業を約60時間受講しているか、これと同じ程度の学習経験)
3 級	ドイツ語の初級文法全般にわたる知識を有し、簡単な会話や文章が理解できる。 (ドイツ語授業を約120時間受講しているか、これと同じ程度の学習経験)

「**オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験**」(ÖSD)は、オーストリア連邦省3省により発案された国家公認のドイツ語能力検定試験です。世界の200以上の機関で実施されています。**初級**(GD)から**上級レベル**(Oberstufe)まで6レベルに分かれ、筆記試験(読解、聴解、作文)と口述試験によって構成されています。独検3級合格後に、この「初級」を受験することを勧めています。甲南大学でも例年1月に会場校とするように努めています。

ドイツの「**ゲーテ・インスティトゥート**」が提供する検定試験は、世界で一番広く認められているドイツ語の検定試験です。東京・大阪・京都のGoethe-Institutで受験することになります。初級(**スタート・ドイツ語1**)からネイティブに近い能力を証明する試験(**大ディプロム試験**)まで多様です。ÖSDの「初級」合格後は、ÖSDあるいはGoethe-InstitutのZD(Zertifikat Deutsch)に合格すれば、ドイツ語の運用能力を証明する立派な証しとなります。授業では特に中級IIIおよび上級Iで検定準備を行っていますが、是非他の科目でも実力を養ってください。検定については、以下の関連ホームページで詳しく調べることができます。

「独検」：<http://www.dokken.or.jp/>

「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験」：<http://flcsvr.rc.kyushu-u.ac.jp/~de/oesd/>

「ゲーテ・インスティトゥート」：<http://www.goethe.de/ins/jp/osa/lrn/prf/jaindex.htm>

皆さんのスケジュール表の中に、検定受験の計画を書き込んでみませんか？

仏検に挑戦して就職・進学に有利な資格を取ろう！

国際言語文化センター教授 中 村 典 子

フランス語を学んでいる皆さん、在学中に自分のフランス語の力を客観的に提示できる資格を取得することをお勧めします。関西で受験できるフランス語の検定試験には、次のようなものがあります。

- ① 文部科学省後援「**実用フランス語技能検定試験**」(仏検) <http://www.apefdapf.org>
- ② 国土交通省管轄「**通訳案内士試験**」
http://www.jnto.go.jp/jpn/interpreter_guide_exams/index.html
- ③ フランス国民教育省認定「**DELF/DALF**」 <http://www.delfdalf.jp>
- ④ フランス国民教育省認定「**TCF**」 <http://www.ciepf.fr/en/tcf/>

ミニコメント

- ② 「通訳ガイド試験」として知られ、日本で唯一の語学能力に関わる＜国家試験＞。語学試験では最も権威がある資格で、日本地理・歴史などの一般教養試験もある（各外国語で年1回実施）。2006年度の合格率は、フランス語12.6%、英語16.8%となっている
- ③ 英語のTOEFLに当たるものだが、A1・A2・B1・B2・C1・C2の6つのレベルがあり、可否判定される。交換留学ではなく、正式にフランスの大学の学部に入學する際に必要とされるのがC1かC2合格のレベル（年2回実施）。
- ④ 英語のTOEICと似ているフランス語能力診断テストで、可否はなく獲得点数と証書が出され、獲得点数は2年間有効。フランスへ留学する時にも役立つ。

＜仏検とは？＞ 文部科学省が後援する唯一のフランス語の検定試験で、毎年6月と11月に年2回実施され、5級～1級までの7つの級があります。「聞く」能力を含んだ総合的な力が問われ、準2級以上では二次の面接試験で「話す」能力も判定されます。各級において英検よりも要求水準が高く、特に準2級以上ではかなりの努力が要求されます。なお、フランスの大学への一年留学には、仏検2級合格程度の力が求められます。5級～2級の試験を甲南大学6号館で受験できます。

＜仏検受験の目安＞ 2年次から履修できる「中級フランス語Ⅲ」の内容は「実用フランス語」で、主として仏検対策の授業です。

1年次	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ」＋＜問題集による自習＞	11月に5級に挑戦
2年次	「中級フランス語Ⅲ」＋「中級フランス語ⅠまたはⅡ」	4級または3級に挑戦
3年次	「上級フランス語Ⅰ・Ⅱ」＋＜問題集による自習＞	準2級に挑戦
4年次	＋＜語彙を増やす＞＋＜読解力と聴解力を伸ばす＞	2級に挑戦

仏検対策の問題集は、**6号館3階のマルチメディア自習室に常備**しています。また、仏検の問題集等を借りたい人はシッシュ先生（chiche@center.konan-u.ac.jp）または中村（noriko@konan-u.ac.jp）に連絡してください。但し、件名に学部と名前を明記してください。

＜仏検の利点＞ 仏検3級以上は堂々と履歴書に記載でき、仏検3級を取得して就職活動に役立てた先輩も数多くいます。なお、2006年秋季試験の本学会場での受験者の結果は以下の通りです。

*個人を特定できない「可否データ」を入手し作成

	2級	準2級	3級	4級	5級
合格者	2人	4人	6人	5人	3人
受験者	11人	12人	18人	5人	4人

＜フランス語強化合宿＞ 毎年10月の初旬の連休にフランス人留学生を交えて、2泊3日のフランス語強化合宿を実施しています。「聞く」「話す」能力はもちろん、仏検対策も行うので、興味がある方はぜひ参加してください。♪ 後期初めに募集します ♪



2006年秋の合宿のセミナー室で



平生セミナーハウスでの夕食の様子

中国語の検定試験に関心のある人に

国際言語文化センター講師 石 井 康 一

○中国語を勉強している皆さんは、ぜひ検定試験にチャレンジしてみてください。せっかく頑張って中国語を勉強しているのですから、自分の実力を誰に対してもわかってもらえる形にしないともったいないと思います。たとえば就職活動のときに履歴書に書くことができるようになればいいですね。そして検定試験は、勉強の目標としてのわかりやすいハードルでもあり、自分の力を客観的に知るためのいい機会なのです。必要なのは普段からの地道な学習の積み重ね、そしてそこに試験問題対策のテクニカルな面での準備を加えれば更にいいでしょう。

○中国語の代表的な検定試験といえば、日本中国語検定協会による「中国語検定試験（略称：中検）」と中国政府教育部（日本の文部科学省に相当）主催の「漢語水平考試（略称：HSK）」になるでしょう。中検は3月・6月・11月と一年に三度の受験機会があり、HSKは5月と10月の二回です。

○甲南大学の中国語教育は一年間の基礎中国語で中検4級、二年間で中検3級到達を目安にしています。「中級中国語Ⅲ」には「実用中国語」「リスニング」「検定準備コース」の三種類のクラスがありますが、「検定準備コース」のクラスでは、新しいことを学びながら、基礎クラスで学んだことを復習・整理して検定試験に対応できる力をつけることを主眼にしています。よく学生に質問されるのですが、

●検定準備コースの授業をとらないと検定は無理ですか？

●検定準備コースの授業だけ出れば検定は大丈夫ですか？

どちらも間違いです！読み、書き、聴き、話す力を総合的に伸ばすために、中級・上級の授業をできるだけ多くとることをお勧めします。

○また、キャリアセンター主催で「中国語検定試験対策講座 3級コース」が秋に開かれます。10月15日（月）から11月13日（火）まで、月曜・火曜の16：30－18：00の10回の講座です。10月1日（月）昼休みに223教室でガイダンスが行なわれます。有料ですが、検定対策に特化した、試験本番直前の価値ある講座だと思います。詳しい資料はキャリアセンター（5号館1階）にあります。

○検定準備コースの授業をとれない人も、ぜひ検定にチャレンジしてみてください。過去問を押さえておくことは大いに有効です。くわしくは月曜日お昼休みの中国語学習相談アワー（6号館5階、中国語・韓国語学習指導室）のときに来て下さい。過去問は6号館3階マルチメディア自習室にも備えてあります。

○大きな書店には中国語の検定試験の各種問題集が並んでいます。ぜひ手にとってみてください。フィーリングの合いそうなものを一冊選んで徹底的に勉強するのもいいでしょう。

＜洪潔清「中国語検定2級 一ヶ月でできる総仕上げ」白帝社 2,520円＞

など、高いレベルの検定に対応した参考書・問題集も最近増えてきました。

○その他、チューターの指導時間、中国語強化合宿など、検定に向けて中国語の力を高める機会はたくさんあります。中国語を勉強している皆さん、受動的に授業に出るだけでなく、自分自身のために今すぐ積極的に行動して下さい！

○参考：日本中国語検定協会 <http://www.chuken.gr.jp/>

漢語水平考試 <http://www.jyda-ie.or.jp/hsk/top.htm>

検定試験には、他にも「ビジネス中国語検定試験」「実用中国語技能検定試験」があります。

○第3外国語として中国語をやってみたいと思う人への手ごろな入門書

＜相原茂「はじめての中国語「超」入門」ソフトバンク新書 787円＞

- ② 動詞 + 了 + 回数・時間・数量 + (目的語) ~した
 動詞 + 了 + 回数・時間・数量 + (目的語) + 了 (現時点まで) ~している/した

去年我去了一趟美国。
 Qùnián wǒ qùle yí tàng Měiguó.

我昨天看了一个小时录像。
 Wǒ zuótiān kànle yí ge xiǎoshí lùxiàng.

我上午去书店买了两本杂志。
 Wǒ shàngwǔ qù shūdiàn mǎile liǎng běn zázhì.

我已经吃了八个饺子了, 还想吃两个。
 Wǒ yǐjīng chīle bā ge jiǎozi le, hái xiǎng chī liǎng ge.

你学了多长时间汉语了?
 Nǐ xuéle duōcháng shíjiān Hànyǔ le?

——我学了一年半了。
 Wǒ xuéle yí nián bàn le.



「唐三彩」

「中級中国語Ⅲ」検定準備コースのテキスト: 胡金定・吐山明月
 「中国語基礎文法トレーニング」(白帝社) から

韓国語学習者のための「韓国語検定試験」の紹介

国際言語文化センター准教授 金 泰 虎

①日本における「韓国語検定試験」の種類、受付、試験会場

韓国語を学習している学習者なら、それぞれの科目、つまり基礎・中級・上級科目を受講してから自分の韓国語能力がどこまで到達しているのか、また大学で第2外国語を勉強した印として、ひいては就職活動に活用できる資格として、「韓国語検定試験」の受験をお勧めします。

日本における韓国語に関する検定試験は、次の4つが挙げられます。すなわち、「ハングル能力検定試験」、「韓国語能力試験」、「KLPT(Korean Language Proficiency Test)」、「韓国語レベルテスト」です。この中で「韓国語レベルテスト」は、塾などで韓国語を学習する学習者とその主な対象であるため、これを除く3つの試験だけを説明して行くことにします。その実施機関と時期は次の通りです。

検定試験名	実施機関	実施時期
「ハングル能力検定試験」	ハングル能力検定協会	毎年6・11月
「韓国語能力試験」	財団法人韓国教育財団	毎年9月
「KLPT(Korean Language Proficiency Test)」	全教振韓国語能力検定協会	毎年4・10月

甲南大学は、この3つの検定試験の本会場になっており、学習者にとって受験しやすい環境が整っています。つまり、甲南大学生協(書籍部)は「ハングル能力検定試験」や「KLPT(Korean Language Proficiency Test)」の願書を配布して、受付まで行っているため出願手続きが便利で、なお在籍校で受験できるから落ち着いて自分の実力を発揮することができると思います。ちなみに、各検定試験の願書受付の締め切りは、おおよそ試験日の1ヶ月前までです。

②甲南大学における「韓国語検定試験」の取り組みと、これまでの成果

甲南大学の韓国語においては「中級韓国語Ⅲ」が「韓国語検定試験」対策の科目であり、授業の中では既出問題や予想問題を解いたり、単語集を活用したりして受験準備に取り組んでいます。また、「上級韓国語Ⅰ」においても部分的に検定試験の対策を行っています。この検定試験を受けるには、検定試験対策の科目の受講が望ましいですが、会話・読解中心の科目を受講する学習者も受験しており、その多くが資格を取得しています。

ところで韓国語では、マルチメディア自習室(6号館3階)や韓国語学習指導室(6号館5階)に「韓国語検定試験」の既出問題集・予想問題集・単語集、聞き取りのためのテープやCDを備えています。ですから、これらを活用して独学で学習を進めて受験することもできます。その場合、自分一人で理解できないことは、学習相談アワーや韓国語チューターを尋ねて教わるなどして学習を深めることができます。なお、毎年の韓国語強化合宿(2泊3日)の期間中も検定試験に関する質問や学習ができる絶好のチャンスです。

これまで「中級韓国語Ⅲ」を受講した学習者の7~8割程度が検定試験を受験して、その中で約8割くらいが資格を取得しています。冒頭で述べたように、検定試験を自分の実力の到達点を把握する機会にし、また資格を取得して就職活動の際にも積極的に活用して下さい。

挑戦に終わりはない

国際言語文化センター日本語特任講師 富 阪 容 子

日本語能力試験とは？

1984年から実施されている「日本語能力試験」(財団法人日本語教育支援協会主催)は日本語を母語としない者の日本語能力を判定する試験として最も定評があるものとされています。現在では毎年世界の47ヶ国・地域で約43万人が受験しています。この試験は1～4級までありますが、1級に合格するには高度の文法や漢字(2000字)・語彙(1万語程度)を習得した総合的能力が求められます。日本の大学に入るためには、1級合格を要求される場合が多かったのですが、2002年からは入試目的には「日本留学試験」(日本学生支援機構主催)が利用されるようになりました。

日本語能力試験のほかに何がおすすめ？

交換留学制度を利用して甲南大学で学んでいる留学生は「日本語能力試験」を受験するチャンスがない場合が多いです。この試験は年に1度、12月にしか実施されていません。しかも、毎年7月から9月初旬の受験申込が必要とされますが、留学生の来日は9月初旬ですから、せっかくのチャンスを逃すことがしばしばです。では、この試験以外にどんなチャンスがあるのでしょうか。まずは「漢字検定」が考えられます。漢検はご存知のように、日本語母語話者を対象としたものですが、小学校低学年のレベルから少しずつ上の目標を目指すことによって漢字能力が伸びるばかりでなく語彙力も豊かになります。少しずつ昇級することはそれほど高すぎるハードルではないこと、認定されることによって自己の能力の伸びを実感できること等で効果的です。次のおすすめは「実用日本語検定」です。これは年間約2万人しか受験していませんが、年に6回も実施されるので、受験を目指すことは学習の良い動機付けとなります。日本語能力試験1級以上の能力も測定できる試験ですから、何回か受験することによって学習到達度を知り日本語力の進歩がわかるので励みになります。

日本語の会話能力はどうやって測る？

日本語能力試験では「聴解」「文字・語彙」「読解・文法」などの能力が測定されますが、会話能力の測定は今後の課題とされています。会話能力の測定と言えばA C T F L (米国外国語教育協会)が実施しているO P I (Oral Proficiency Interview)が考えられます。約30分にわたる面接試験によって初級から超級までの10段階に判定されます。日本語を用いてどこまで詳細な説明や意見表出が可能かをできるだけ客観的に判定しようとするものです。会話能力測定だからといって、総合的な言語運用能力を無視するわけにはいきません。

目標に向けてチャレンジ！

以上、これまでに甲南留学生が受験した検定試験について述べてきました。検定試験対策の授業は開講されていませんが、個々の学生がそれぞれのニーズに合わせて取り組めるように、必要に応じて課外個別指導を受ける機会が与えられています。申込方法や受験対策としての学習方法についてアドバイスや支援を受けることができます。自分で自分の学習を管理し方向づけることこそが成功への第一歩となるでしょう。過去の留学生の中には、在学中は検定試験でそれほど芳しい結果が得られなかったものの、帰国後に学習成果が花開いて検定試験に合格したとのうれしい知らせをもたらしてくれることがあります。継続は力なりということを実感させられます。もっと広い視野を持って取り組むことが肝要です。より高いステップを目指してチャレンジしましょう。



留学生の授業風景